

長畝ふるさと通信



【2026年7月号】

■ コスト指標は底値なのか

「コスト指標」とはあらゆる物価が上昇する中で、農水省が食糧システム法に基づき米穀安定供給確保支援機構（米穀機構）に作成させたコメの指標です。肥料費や労働費などの生産コストから「集荷」「卸」「小売」までの各コストを積み上げて算出したもので、要するにコメを作るための最低限必要な経費と物流コストを含めたコメの卸価格の最低基準のことで、玄米60kg当たりの生産コストは 20,535 円でそこに物流経費を加算した卸価格は 30,412 円となるそうです。この基準から算出される小売業者の原価は5kg精米で2,816円となるらしく、そこに小売業者の利益を乗せると 3,400～3,500 円程度の小売価格となるらしい。つまりこれからのコメは最低限、生産者が1俵 20,000 円程度で作って、小売価格は5Kg 3,500 円程度で販売されることが国の基準ということになります。ただしこの指標は作付面積3ha未満の小規模農家を基準に算出したもので、この規模の農家を作っているコメ生産量は全体の3割程度しか無いのです。正直、我々専門のコメ生産者の生産コストはここまで高くはなく、個人的な意見としてはもう少し安く見積もっても、消費者から支持される価格帯を設定すべきではないかと思っています。一方で後継者不足から今後農地の担い手となる我々法人組織には個別に経営支援をしていただくことができれば、それに越したことはありません。

農水大臣は「価格はマーケットの中で決めるべきで、コメ価格にコミットしない」と発言していますが、一方でこうした高値安定型の指標を示しているのです。生産者にとってコメは高いほど良いのですが、反面、高値が原因で消費離れが加速してしまうことの方が心配なのです。前出の米穀機構によると2025年の国民一人当たりのコメ消費量は月 4,435gで前年の6, 1%（茶碗4,4杯



分)も減少しているそうです。「生産者と消費者が納得する価格なんて矛盾している、あり得ない」と思っており、最終的には個々の合意で成り立つのではないのでしょうか。私たちは美味しいコメ作りに励み、それを納得して買い求めて下さる消費者と結びつく以外ないのでは・・・と。

しかし、コメ作りは単なる食糧生産産業ではなく、国土（農地）を維持する役割も果たしており、そのことを国民が理解してくれたら、もう少しやりやすくなるのではないだろうか・・・。

- 上写真はドローン 2 号機です。1 号機より小さく小回りが利きます。

■ 出穂が10日も早い？

近年になく生育状態が良く、出穂が10日近く早まっています。7月後半は2台のドローンを駆使して連日早朝5時から穂肥散布を実施しました。これから1か月間の天候や水管理が収穫量を大きく左右するので、予断を許しません。夏期のカメムシ防除は例年なら8月10日過ぎから行うのですが、カメムシさんも異常発生しており、こちらも8月初旬に日程変更して実施するつもりです。連日の早朝作業に職員も疲労困憊の様子ですが、ここが踏ん張りどころと檄を飛ばしています。

新潟は7月末になっても梅雨明けしていません。8月になって一気に気温が上昇し「酷暑日」が続かないことを願うばかりです。



■ W杯で思ったこと

世界的なスポーツの祭典「サッカーワールドカップ」は大変面白かったです。日本は残念ながら世界レベルに達したと感じました。世界中が熱狂する一方で過剰な商業主義や政治的介入も問題視されました。決勝戦のチケットは最安値で110万円、平均200万円もしたそうで、もはや富裕層しか現地観戦できない状態です。しかも日本が支払った放映権料は300～350億円だそうで、確かに経済効果があったとしても、これは何か別の世界の祭典ではないかと思えます。優勝したスペインの優勝パレードには何と200万人が集まったとか、昨年優勝した阪神タイガースの優勝パレードが20万人、日本の国技「相撲」の優勝パレードは(名古屋場所の安青錦の優勝決定戦は降興奮したな〜)・・・この国民の熱狂の差が今の実力か・・・。

■ 令和8年産もよろしくお願いいたします

令和8年産米の年間予約のご案内は8月末となります。皆さんから納得していただける価格と品質を提示していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。